

県大会の舞台で大活躍！



[教育目標]

健 自 責
康 主 任

小原田中だより

令和7年8月号
郡山市立小原田中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0720007>



七月下旬、夏休みに入って間もなく、中学校の部活動にとっては、大きなイベントが開催されます。

運動部にとつての集大成、中体連の県大会が、県内各地で分散開催され、小原田中からは、郡山市大会、県中地区大会を勝ち抜いたソフトテニス部の三年生男子ペアが、個人戦ダブルスに出場しました。会場は会津総合運動公園テニスコート。一回戦は対伊達中、競り合いながらもゲームカウント3-0で勝ち。二回戦は、対若松一中、こちらも危なげなくゲームカウント3-0で勝ち。三回戦、対泉中、今大会の優勝ペアとの対戦は残念ながら0-3で敗退。しかしながら、堂々の県ベスト16の結果をのこしました。

運動部だけではありません。吹奏楽部にとつての大イベント、県吹奏楽コンクールが開催されました。

県南支部大会で金賞を受賞し、県大会への切符を手にした小原田中吹奏楽部は、いわき芸術文化交流館アリオスで行われた県大会に出場しました。

演奏順二番目の本校吹奏楽部員は、当日朝四時に学校に集合し、一時間程度の練習を行い、会場へと出発しました。

三年生が四人、二年生と一年生が九人ずつと、まだまだ成長途中の部員たちですが、回を重ねるごとに一体感を強めてきた演奏は、当日も勢いを見せ、見事、金賞を受賞しました。

支部や地区の大会に留まらず、県の舞台に行っても力を発揮する子どもたち。部活動に限らず、様々な分野での活躍が期待できそうです。

夏の頑張り自信に変える

市 中学校 英語弁論大会



郡山市中学校英語弁論大会が、八月二十八日(木)郡山市中央図書館視聴覚ホールを会場に行われました。小原田中からは、三年生二名が暗唱の部、創作の部それぞれに参加しました。二人は、夏休み中も登校し、先生と一緒に熱心に練習に励んできました。暗唱の部に参加した男子生徒は、英語の教科書に載っている読み物「A Graduation Gift from Steve Jobs」の卒業の贈り物を発表しました。卒業生としての有名なスピーチが語った3つのストーリーから成る文章を覚え、感性豊かに堂々と表現しました。創作の部に参加した女子生徒は、自身の経験そして今の状況について「How to make friends in one easy step」というテーマで発表しました。幼い頃、無邪気に友だちと楽しく遊んでいた自分と、少しずつ成長し自分なりの考えや価値観を持ち始めるからの自分とのギャップに苦しみ、人間関係をつくることに臆病になってしまった自分。そんな問題を抱える自分を励めてくれ、そのSCへの対応、言葉に救われた経験を素直に表現し、発表しました。始業式の日、初めて全校生の前で自分の気持ちを伝える機会となり、とても緊張していた様子でしたが、本番では、他校生の前というよりもあり、本来のスピーチができました。英語弁論大会という機会は、自身の英語力の伸長の他にも成長の機会となることを改めて感じました。



市 中学校 駅伝競走大会 選手壮行会

八月二十九日(金)、来月四日に東山霊園内周回コースにおいて行われる、市中学校駅伝競走大会の壮行会を行いました。お正月の風物詩にもなっている箱根駅伝に代表されるように、駅伝は何となく冬のスポーツのような印象がありますが、中学生の駅伝競走大会は、残暑厳しいこの時期から始まります。暑い時期から始まり、その暑さに慣れる必要もあることから、子どもたちは、夏の暑い盛り、熱中症予防とともに練習に励みます。女子は二kmと三kmの区間、合わせて五区十二kmを、男子は三kmの区間合わせて六区十八kmを一本の襷で繋ぎます。五人または六人のうち、一人でも途中で断念すれば、襷は繋がりません。本番では、他校の選手と競いながら走るの、普段の練習の時とは違い、オーダーペースとなり、チームのプレーキになることもあり、それだけに、子どもたちは、この一本の襷を次の走者に繋ぐため、ひたすら走ります。二kmまたは三kmの区間、およそ十分間を、彼らはどんな想いをもって走るのでしょうか。暑さで諦めそうになったとき、沿道からの応援の拍手に勇気づけられた嬉しさ、お盆前の暑い時期、仲間と一緒に辛い練習に取り組み乗り切った自信、自分の到着を首を長くして待っている仲間の顔が思い浮かんだ責任感。様々な想いを胸に、彼らは走ることであります。その想いの助けに、少しでもなればと、応援団、そして全校生の応援にも力が入ります。頑張り、小原田中駅伝部！